県コンクリ骨材対策協議会総会

共同試験場設置へ

検討委を発足へ

骨材の調査推進も決めた総会
＝鹿児島市のベイサイドガーデンで

県コンクリート骨材対策協議会（桑木喜行会長）は8日、鹿児島市のベイサイドガーデンで第4回通常総会を開き、骨材確保における長期見直しの抜本的改定と、JIS改正に伴う諸問題への取り組みを重点項目とした15年度事業計画を決めた。

総会では、初めに桑木会長が「今年度に行われる長期見直しはわれわれにとって重要となる。諸事業に積極的に取り組み、業界の向上発展に貢献することに尽力していきたい」と挨拶。続いて、議事に入り、桑木会長を議長に14年度事業・決算報告、15年度事業計画・収支予算案などを慎重に審議し、執行部原案通り可決承認。また、技術委員会、輸入砂調査研究部会、砕砂研究部会、シラス及び再生骨材利用等開発研究部会から14年度の調査研究、15年度の主要事業についての報告も行われた。

新年度の重点項目は、県公共事業等骨材確保対策協議会で15年度に行われる骨材確保に関する長期見直しについて、技術問題、環境問題等を検討する二つの委員会の設置も併せて、抜本的な改定をお願いすることと、15年12月のJIS改正に伴い1年後に民営化され、民間委託となった場合でも参画することの2項目を掲げた。その中で認証制度等に対応するため、本県に共同試験場の設置を実現させたいとし、これを全員が賛同了承、検討委員会を発足し、全面的に取り組んでいくことを決定した。

新年度事業計画の主要事業は、①技術研究－骨材の現状調査、コンクリート実験等②砕砂研究－生コンや2次製品等の砕砂使用拡大のための品質向上調査研究、砕砂の製造技術及び環境対策の調査研究等③シラス及び再生骨材利用等開発研究－シラス使用コンクリートの強度・耐久性・施工性などの調査研究、再生骨材利用の調査研究等④輸入砂調査研究－輸入仕入先の調査研究、輸入使用対策の調査研究－など。

県木材関係団体が陳情

木材需要の拡大訴える

10月8日の「木の日」に合わせ県木材利用推進運動協議会（横小路喜代治会長）、県林材協会連合会（同）、県木材協同組合連合会（同）などは8日、鹿児島市の県庁を訪れ、脇田稔副知事ら県当局に対して、地材地建に即した木造住宅建設及び内装木質化の推進や公共施設の木造化などを推進し木材需要の拡大を訴えた。

陳情は、増留貴朗県議、柴立鉄彦県チップ協会長、橋本和之県木材市場連絡協議会会長ら11人で構成。県側は脇田稔副知事、加藤憲一土木部長、富岡忠勝農政部長、住吉徹教育次長、徳重勝治林務水産部長が応対。陳情団は、木材需要の低迷の現状を述べた上で、県が進めている地材地建の家づくりや公共施設への木材利用の推進などで木材需要の拡大を要望した。要望書の内容は、①地材地建に即した木造住宅建設及び内装木質化の推進②公共施設の木材化及び間伐材等の公共工事等への利用拡大の推進③地域材の品質確保対策の推進④県産材輸出の手癖綱推進などについて説明した。

陳情を受けて、県側は「公共施設への利用促進や優良事例などを示し生産者と利用者が連携を持ちながら木造化へ向けて広がりをもたせたい。また、業界と一体となって取り組みたい」などと答弁した。

公共施設の木造化等を要請した陳情
＝鹿児島市の県庁で

大福コンサルタントが30周年

更なる発展へ団結を

大福コンサルタント㈱（福田光一社長、本社・鹿児島市）は4日、鹿児島市の同社研修室で「創業30周年記念式典」と「第31期経営計画発表会」を開き、30周年の節目を祝うとともに更なる発展に向け一致団結していくことなどを誓った。

今後も顧客のニーズに応え、存在価値のある会社に―と挨拶する福田社長＝鹿児島市の同社で

式典では、福田社長が「企業の生命は30年と言われており、その意味では、我が社もやっと世間に認知された会社になったのではないかと思う。今日あるのは、いろいろな人々に支えられたおかげであり、その恩恵を忘れてはならない。今後も顧客のニーズに応え、存在価値のある会社になろう」と挨拶をした後、30周年記念の功労者として退職者を含む4人に功労賞の表彰と記念品を贈り、功績をたたえた。

引き続き行われた第31期経営計画発表会では、厳しい外部環境に打ち勝って「今こそ、生きる証を作れ！」のスローガンを掲げ、創業時の原点に帰り、社員一丸となって頑張ろうと誓い合った。このあと、30期に成績の向上がみられた個人及び課に対して、福田社長から社長賞、奨励賞、努力賞、特別賞の金一封が、永年勤続表彰では、15年、10年、5年の13人に表彰状と記念品がそれぞれ贈られ、最後に、各課による力強い目標が発表された。

発表会終了後は、場所を山形屋7階社交室に移し「創業30周年祝賀会」を全社員（92人）で盛大に祝った。

県庁に四阿を設置

地材地建の一助に

土木事業用丸太等供給協議会

土木事業用丸太等供給協議会（安田巧会長）は「木の日」の8日、県産材の利用拡大と県産材の良さを広く普及するため鹿児島市の県庁敷地内にトラス工法を使った四阿（あずまや）を設置し竣工式を行った。

四阿は、県産材の間伐材を使い柱、水平材、垂直材、斜め材等に1344平方㍍の丸太を使い2週間程度で完成させた。また、同日式典で使用したベンチや演台なども丸太で造り好評を得た。

丸太カットで完成を祝う関係者
＝鹿児島市の県庁で

竣工式では、安田会長が木材住宅の着工戸数などが低迷している中で、県でも地域材を使った家づくりなどを推進しており、木材需要の拡大を図る目的とPRを兼ねて設置した経緯などを述べ、県出納長、森林・林業活性化推進議員連盟会長、県森林組合連合会副会長らが「県内の施設などにも地材地建の家づくりなどを行うなど木材利用の推進を行っており、需要拡大に努めたい」と挨拶した後、通常のテープカットに代わり丸太カットを行い完成を祝った。丸太カットは日頃使い慣れないのこぎりということもあり必死で切る姿などに出席者らから笑顔がこぼれていた。

なお、丸太資材は緑化支柱木、看板、フラワーボックス、作業現場詰め所、公園資材、治山用丸太材杭、木工沈床、木レンガ、木製歩道、木製パネルなど幅広い利用ができる。

「ガーデンヒルズ松陽台」分譲

28日に案内所開所式

県住宅供給公社

日置郡松元町に「ガーデンヒルズ松陽台」の造成を進める県住宅供給公社は、11月1日から分譲を開始する。分譲に先立ち、28日午前11時45分から、現地で「県住宅供給公社ガーデンヒルズ松陽台案内所」開所式を開く。

ガーデンヒルズ松陽台は鹿児島広域都市圏のベッドタウンとして生活関連施設が整備された近郊型住宅地として整備されている。計画面積は約39㌶。戸数は戸建住宅471、集合住宅222の計693区画。今回、分譲開始するのは、109区画。平成4年から用地取得を開始し、造成工事は青木建設・渡辺組・久保工務店・西郷組JVが担当。工期は16年3月20日を予定している。

土木一式工事・建築一式工事
解体工事・家屋曳移転工事
株式会社大城
県知事許可（特－12）第4087号
本社　鹿児島市宇宿町1955-1　☎(099)275-3600㈹
下荒田事務所　鹿児島市下荒田1-18-2　☎(099)254-3938番